

# 世界文学 あらすじ 大事典

\* 全4巻 \*

監修 = 横山茂雄 / 石堂藍

欧米でロングセラーの決定版事典より  
世界文学の名作1001編を精選する  
あらゆる文学ジャンルを網羅した百科全書的大事典!!

国書刊行会

## 本事典の特徴

- \* 欧米でロングセラーの決定版事典より1001編を精選する。
- \* 戯曲、叙事詩、回想録等を含む世界文学の主要作品を網羅したセレクション。
- \* ギルガメシュ叙事詩からピンチョンまで、古今東西の作品を収録する。
- \* 配列は書名の五十音順。
- \* 初版年、ジャンル等の書誌データも充実。
- \* 作家略歴、文学史的な位置付けを解説として各項目に記載。
- \* 長編作品にも十分な紙面を割り、詳しくあらすじをたどる。
- \* 各項目末に翻訳リストを付す。
- \* 第4巻巻末に作家名索引を付す。
- \* 肖像写真等の図版を多数掲載。
- \* 図書館でのレファレンスに最適。

B5版・上製クロス装・函入・各巻約600頁 本体価格：各18,000円

第1巻配本 \* 2005年7月

\*以降半年ごとに刊行。2006年中に完結予定\*

第1巻 ISBN4-336-04698-0 ・ 第2巻 ISBN4-336-04699-9  
第3巻 ISBN4-336-04700-6 ・ 第4巻 ISBN4-336-04701-4

### 監修者略歴

#### 横山茂雄

1954年生まれ。奈良女子大学大学院教授。英文学者。著書に『聖別された肉体』（水声社）、『異形のテキスト』（国書刊行会）、訳書にジェフリー・アッシュ『アーサー王伝説』（平凡社）、ウィルキー・コリンズ『アーマデイル』（臨川書店）等。

#### 石堂 藍

1960年生まれ。早稲田大学文学部卒。ファンタジー評論家。季刊誌『幻想文学』に20年にわたって携わる。著書に『ファンタジー・ブックガイド』、共著に『幻想文学1500ブックガイド』（共に国書刊行会）等。

### ◆取扱書店

◆発行 国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427  
http://www.kokusho.co.jp e-mail:info@kokusho.co.jp



# ＊ 監修者のことば ＊

小説であれ、芝居であれ、はたまた、神話や叙事詩であれ、わたしたちの大半はまず筋に惹かれて、それを読んだり観たり聴いたりする。

新作の小説、芝居を扱う書評、劇評で、簡単にせよ筋に触れないものはないだろうし、書店に並ぶ本のカヴァや帯などには粗筋が刷り込まれている。なければ読者はきつと怒りだすにちがいない——「これでは何の話かわからない」と。

もちろん厳密に言えば、筋 (plot) と話 (story) を区別する必要はあるのだが、そういう堅苦しい議論はさておいて、ことほどさように筋は大事なものである。

しかしながら、大事なはずの筋をわたしたちがしばしば忘れてしまうのも事実だろう。

かつて読んだ物語、場面の幾つかはまざまざと想起できるというのに、筋の細部は消え去っている。あるいは記憶のなかで大きく歪み変形する。主人

公は憶えていても、傍役は思い出せない。こういった体験は誰でもありだろう。強い感銘を受けたはずの本においてもこれは起こりうる。

『世界文学あらずし大事典』全四巻は、したがって、名のみ聞く書物がいったいどんな「話」なのか知りたい、知る必要に迫られた方々、そして、以前に読んだ書物の筋を確認したいと欲する方々の双方を対象としている。

本事典が基盤とするのは Frank N. Magill の編になる書物であるが、浩瀚な同書の収録内容から取捨精選したうえで、すべて原作にあたりなおし筋の梗概に遺漏脱落がないよう万全を期すなど、大幅な改訂増補作業を独自におこなった。また、作品の文学史上における意義等に関する簡潔な解説、翻訳リストをも加えたので、一種の世界文学事典として使っていただけではないかと思う。本書をてがかりとして、一〇〇一冊の豊饒な物語宇宙に触れただけならば幸いである。

奈良女子大学大学院教授 横山茂雄

\* 目次より \*

アイヴァンホー／アエネーイス／青白い炎／赤と黒／悪霊／アブサロム、アブサロム！／アフリカの印象／嵐が丘／アレクサンドリア四重奏／アンティゴネ／アンナ・カレリーナ／怒りの葡萄／移動祝祭日／異邦人／イリアス／V. ヴィルヘルム・マイスターの修行時代／ヴェニスに死す／失われた時を求めて／エジプトのイザベラ／エマ／エリア随筆／エルサレム解放／エレクトラ／エレクトラとエニード／エンディミオン／オイディプス王／黄金の壺／王書／嘔吐／オーカッサンとニコレット／オセロー／恐るべき子供たち／オデュッセイア／オトランド城綺譚／オルメイヤーの阿房宮／鏡の国のアリス／ガラス玉演説／カラマーゾフの兄弟／ガリヴァ旅行記／ガルガンチュワ物語／パンタグリユエル物語／カンタベリー物語／キャッチ22／狂えるオルランド／クオ・ワデイス／月長石／ケニワースの城／ゴドーを待ちながら／桜の園／サテュリコン／三十九階段／三銃士／ジキル博士とハイド氏／C 神父／七破風の屋敷／日月両世界旅行譚／失楽園／死都ブリュージュ／シヤクンタラー姫／ジャン・クリストフ／ジャングル・ブック／シルトの岸辺／親和力／水滸伝／西部戦線異状なし／千夜一夜物語／大理石の牧神／誰がために鐘は鳴る／宝島／旅路の果て／旅は驢馬を連れて／ダフニスとクロエ／タルタラン・ド・タラスコン／地下生活者の手記／地下鉄のザジ／痴愚神札讃／チボー家の人々／チャタレイ夫人の恋人／釣魚大全／ツアラトウストラはかく語りき／月と六ペンス／椿姫／ツバメ号とアマゾン号／罪と罰／デカメロン／テス／田園交響楽／天使も踏むを恐れるところ／天路歷程／東方見聞録／透明人間／特性のない男／ドクトル・ジバゴ／トム・ソーヤーの冒険／トリスタンとイゾルデ／ドルジェル伯の舞踏会／泥棒日記／ドン・ジュアン／眺めのいい部屋／ナンタケット島出身のアーサー・ゴードン・ピムの物語／人間の条件／ねじの回転／灰とダイヤモンド／蠅の王／白鯨／白痴／鳩の翼／薔薇物語／バラントレーの若殿／東行きだよ！お！／ブヴァールとベキュシエ／フィガロの結婚／フイネガンス・ウエイク／フェードル／武器よさらば／復活／ブデンブルック家の人々／ブライツヘッドふたたび／フランシーとゾーイー／フランケンシュタイン／ベールオルフ／ベスト／ベレアスとメリザンド／ベン・ハー／マクベス／まじめが肝心／魔の山／マハーバラータ／マビノギオン／マンク／未来のイヴ／モンテ・クリスト伯／やし酒飲み／闇の奥／ユートピア／夢判断／ユリシイズ／妖精の女王／ラーマーヤナ／ラモーの甥／リア王／聊齋志異／リリス／老人と海／老水夫行／ロランの歌／ロリータ——他、一〇〇一編収録。

## 世界文学あらずし大事典を推薦する

### 紀田順一郎

作家・評論家

文学作品の梗概を知るためのツールは数多く出版されているが、名作の名作たるゆえんを適切な要約で伝えるのは、私の貧しい経験からも非常にむずかしい。簡略に過ぎては原著の精神を伝えるににくいし、詳細に過ぎては全容を把握し難くなるからだ。

このたび国書刊行会から出版される『世界文学あらずし大事典』は、半世紀の長きにわたって版を重ねているフランク・マガイル編の原著をもとにしているだけあって、要約の手際は群を抜いている。何よりも十分な紙数を費やして、内容的に要約が至難な複雑な筋立ての作品や、ほんらい筋が明確でない抽象的な内容の作品をも、おどろくべき精細さで、その真価を伝えることに成功している。収録点数の多いことも当然ながら、日本語版はさらに読者の受容に合わせた独自の編集を行っているので、図書館、研究者、読書人の幅広い要求に十分応えることができそうだと思う。

### 柴田元幸

翻訳家・東京大学教授

名作のあらずし事典という点、「忙しい現代人」が手っとり早く「教養」を身につけるための便利本、と思われるかもしれない。もちろん、そのように使われても少しも構わないし、この事典がデータとしてもすごく有用であることも間違いない。訳文はよく練られていて読みやすいし、現代の重要作品については日本語版の監修者自身が執筆し、原書を超えた充実ぶりになっている点も大きな魅力である。

だがおそらく、この事典にはもったいない使い方がある。あらずしはいわば骨であったり、そこに肉をつけるのはあなたの想像力である。この事典で、まだ読んだことのない作品のあらずしを拾い読みしながら、読み手は無数の物語を夢見ることができる。そこから刺激を受けて、全然違う物語を夢想したって構わない。便利本であると同時に、この事典は、あなたの想像力を烈しく起動させるための最良のツールなのである。

### ウィンドミア卿夫人の扇 Lady Windermere's Fan

作者 オスカー・ワイルド Oscar Wilde (1856-1900)  
ジャンル 戯曲  
初演 1892年  
種類 風俗喜劇  
時代 19世紀末  
場所 ロンドン



#### 主要登場人物

ウィンドミア卿夫人マーガレット……若い女性  
アーサー・ウィンドミア卿……裕福な紳士、マーガレットの夫  
ダーリントン卿……ウィンドミア卿と付き合いのある紳士  
アーリン夫人……身持ちの評判の悪い女性  
オーガスタス・ロートン卿……アーリン夫人の求婚者

ワイルドの最初の戯曲で、たいへんな成功を収めた作品。きらびやかだが浮薄で陰險な上流階級の世界を背景に、軽快な会話とみごとな場面展開、気の利いた道具立てで、人情もの傑作を作り上げている。

ウィンドミア卿は、妻の誕生日に、マーガレットという彼女の名前入りの、きわめて美しい扇を贈った。夫人はその扇を手に、同夜主催する舞踏会に出ることになる。それは、ロンドンの社交界の主立った顔ぶれが招待されている選り抜きの舞踏会だった。その日の午後、ベリック公爵夫人がウィンドミア卿夫人を訪問し、夫ウィンドミア卿と、アーリン夫人という女性との情事の噂を吹き込む。アーリン夫人は魅惑的だがいかかわしい評判があり、上流家庭からは爪弾きにされている女だった。公爵夫人の話では、ウィンドミア卿は数カ月前から、アーリ

れて、怒り傷ついた夫人は、夫が帰ってくるやいなや食ってかかる。しかし、ウィンドミア卿は、逆に妻が勝手に自分の私物を開封したことをたしなめ、アーリン夫人との関係にはなんらやましいところはないと断言する。彼女は不運だが品行方正な女性で、失った社交界での地位を取り戻したがっているのだと説明する。さらに、ぜひとも今夜の舞踏会にアーリン夫人を招待するようにと妻に頼む。ウィンドミア卿夫人が拒むと、彼はみずから招待状を寄く。夫の仕打ちに激怒した夫人は、アーリン夫人が恥知らずにもウィンドミア卿の敷居をまたぐなら、あの扇

エマ

### エマ Emma



オースティン Jane Austen (1775-1817)

小説

ロマンス

サリ州

人物

ウッドハウス……ハートフィールド屋敷の女相続人、21歳  
アー・ウッドハウス……エマの父親  
ミット・スミス……エマが目をつけている娘  
老嬢……村のおしゃべり女  
ン・フェアファクス……ペイズ老嬢の姪  
ジ・ナイトリー……エマの姉イザベラの夫の兄、37、8歳  
ン夫人……エマの元家庭教師  
ク・チャーチル……ウェストン夫人の継息子  
ン氏……村の牧師  
ト・マーティン……村の農場主

ティンの円熟期に書かれた問題作。オースティン自身が「私以外誰も好きにならな女」だと言ったエマの際立った性格ゆえに、きわめて多様な反応を讀者（批評家や）に引き起した作品である。これは、エマがあまりにもリアルかつ細緻に描かれてだとも言えるだろう。小説として傑作なのは言うまでもない。

ウスは21歳。裕福で、美しく才やかされてひとりよがりな所がある。遭遇なら無理もないという程度だ

れるような若い女性はいなかった。いまやウェストン夫人となった親友テラーを失った寂しさを埋め合わせようと、エマは近くの寄宿学校の特待生